

午王山遺跡の概要

鈴木 一郎

(和光市教育委員会)

Y=-18600.0

Y=-18700.0

Y=-18800.0

X=-22600.0

X=-22600.0

X=-22700.0

X=-22700.0



图1 午王山遺跡全体図

午王山遺跡の沿革

数万年前	武蔵野台地が、湧水や河川により切り離され午王山が独立丘となる。
約1万2千年～2万年前	午王山に人が暮らしはじめる。ローム層の中から礫群、石器集中などの旧石器時代の遺構が検出される。
約7千年前	縄文時代早期末葉、炉穴が作られる。
約5千年前	縄文時代中期中葉、阿玉台式土器が出土する。
紀元前1世紀ごろ	弥生時代中期後半、宮ノ台式期の集落が出現する。
1世紀ごろ	弥生時代後期前葉の集落（岩鼻式と久ヶ原式の共伴）が出現する。
2世紀ごろ	弥生時代後期中葉の集落（下戸塚式）が出現する。この頃環濠が掘削される。 弥生時代後期中葉の後半には、環濠が埋められ、その上に住居が建てられる。
7世紀ごろ	古墳時代後期の集落が出現する。
天平宝字2年（758）	新羅からの帰化人を集め新羅郡が置かれる。『続日本紀』（朝霞地区四市一帯）
8～9世紀	奈良・平安時代の集落が出現する。
14・15世紀	中世の板碑群が東側の緩斜面に造立される。
江戸時代	「新編武蔵風土記稿」の新倉村の項に牛房山を新羅王居跡とする伝説が記載される。
1966年	谷井彪「大和町新倉午王山出土の弥生式土器」『埼玉考古』第4号にて午王山遺跡の土器が報告される。
1968年	谷井彪・高山清司「大和町の遺跡と出土遺物（弥生時代・古墳時代）」『埼玉考古』第6号にて午王山遺跡の土器が報告される。
1971・1972年	埼玉県で行われた、県内の遺跡台帳整備に伴う埋蔵文化財包蔵地の分布調査により、1972（昭和47）年8月24日に現地踏査が行われ、埋蔵文化財包蔵地台帳に登録され、法的な周知の埋蔵文化財包蔵地となる。
1978～1979年	第1次調査、方形周溝墓のほか板碑群検出
1981年	第2次調査、1号溝（現A溝）、2号溝（現A溝）、6号溝（現B溝）、5号溝（現C溝）が、環濠として認識された。この調査で、岩鼻式土器出土の住居跡と、ハケ刺突文が施される下戸塚式土器の住居跡があることが判明した。

発掘調査経歴、図2 午王山遺跡調査一覧 参照

2010（平成22）年11月	午王山遺跡地内の306㎡の土地を公有地化
2011（平成23）年4月	前年度公有地化した306㎡の土地を対象として第15次調査を実施
2013（平成25）年4月	第15次調査地点（306㎡）が和光市指定文化財（史跡）に指定となる。
2017（平成29）年3月31日	「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物」が和光市指定文化財（考古資料）に指定となる。
2018（平成30）年2月27日	市指定107点を含む、121点が埼玉県指定文化財（考古資料）に指定となる。
2019（平成31）年1月	午王山遺跡の本質的価値を明らかにし、今後の保存と活用の基礎資料とするため、午王山遺跡総括報告書策定委員会を設置する。
2019（令和元）年6月	『午王山遺跡総括報告書』を刊行。総括報告書の刊行と同じくして、文部科学大臣あての国指定史跡の意見具申の準備を進める。午王山遺跡の地権者、関係者へ、午王山遺跡の国指定史跡についての説明会を開催、 午王山遺跡についての理解を深めるとともに史跡指定に対する同意を進める。
2019（令和元）年7月26日	午王山遺跡の史跡指定について文部科学大臣宛に意見具申書を提出する。

2020（令和2）年3月10日	午王山遺跡が国史跡に指定される。
2020（令和2）年8月	史跡を適切な保存活用を行うため、『史跡午王山遺跡保存活用計画』策定の策定委員会を設置し、検討会議を行う。
2021（令和3）年3月26日	国史跡追加指定
2022（令和4）年3月18日	『史跡午王山遺跡保存活用計画』完成。
2022（令和4）年11月10日	国史跡追加指定
2022（令和4）年7～9月	保存目的の第16次調査を行う。
2023（令和5）年10月5～29日	「国史跡指定記念 午王山遺跡展」開催

年度	調査	調査期間	地番	調査面積	主な遺構・遺物	調査原因	担当者	報告書
1978～1979 (昭和53～54)	第1次	1979. 3. 20 ～6. 16	新倉 3 丁目 2867-1外	約2, 200㎡	弥生時代の方形周溝 墓3基、中世の火葬墓 5基・板碑45基	宅地造成	鈴木敏弘	・新倉午王山遺 跡 ・にいくらごぼ うやま1979
1981 (昭和56)	第2次	1981. 8. 10 ～11. 30	新倉 3 丁目 2836-1外	約1, 500㎡	弥生時代の住居跡49 軒・溝3条	市道改良 工事	鈴木敏弘	・和光市埋文報 告書第9集 ・にいくらごぼ うやま1982
1992 (平成4)	第3次	1993. 3. 1～ 3. 26	新倉 3 丁目 2861-1	約272㎡	弥生時代の溝2条、銅 鐸形土製品、古墳時 代の住居跡1軒	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第13集
1993 (平成5)	第4次	1993. 8. 30 ～9. 22	新倉 3 丁目 2844-1	約510㎡	弥生時代の住居跡7 軒・溝2条	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第13集
1994 (平成6)	第5次A 区	1994. 6. 30 ～9. 2	新倉 3 丁目 2836-1	約800㎡	弥生時代の住居跡2 軒・溝1条	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第18集
1994 (平成6)	第5次B 区	1994. 6. 30 ～9. 2	新倉 3 丁目 2842-1、 2843-1	約594㎡	弥生時代の住居跡13 軒・溝2条、銅鐸形土 製品・土鈴	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第18集
1995～1996 (平成7～8)	第6次	1996. 2. 13 ～8. 30	新倉 3 丁目 2841-1、 2842-1	約1, 119㎡	弥生時代の住居跡25 軒	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第23集
1997 (平成9)	第7次	1998. 3. 17 ～3. 25	新倉 3 丁目 2847-1、 2861-2	約105. 6㎡	弥生時代の溝1条、銅 鐸形土製品	共同住宅 建設	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第31集
2000 (平成12)	第8次	2000. 4. 3～ 7. 18	新倉 3 丁目 2839-1	約787㎡	弥生時代の住居跡24 軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第33集
2000～2001 (平成12～13)	第9次A 区	2001. 2. 13 ～6. 10	新倉 3 丁目 2832-1	約368㎡	弥生時代の住居跡9軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第35集
2000～2001 (平成12～13)	第9次B 区	2001. 2. 26 ～6. 29	新倉 3 丁目 2840-1	約479㎡	弥生時代の住居跡16 軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第35集
2004 (平成16)	第10次	2004. 11. 1 ～11. 26	新倉 3 丁目 2837-1	約567㎡	弥生時代の住居跡1 軒・溝2条・方形周溝 墓2基	宅地造成	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第57集
2004 (平成16)	第11次	2004. 11. 16 ～12. 24	新倉 3 丁目 2838-1	約178㎡	弥生時代の住居跡1 軒・溝1条	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第39集
2004～2005 (平成16～17)	第12次	2005. 1. 28 ～5. 9	新倉 3 丁目 2834-1	約400㎡	弥生時代の住居跡11 軒、土製勾玉・ミニチュア 土製品	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第40集
2006 (平成18)	第13次	2006. 8. 16 ～8. 24	新倉 3 丁目 2825-3	約5㎡	弥生時代の溝1条	市道拡張 工事	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第38集
2006～2007 (平成18～19)	第14次	2007. 3. 5～ 5. 11	新倉 3 丁目 2834-1	約684㎡	弥生時代の住居跡16 軒、土製の小玉・双 角有孔土製品	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第42集
2011 (平成23)	第15次	2011. 4. 26 ～4. 28	新倉 3 丁目 2831-1	約306㎡	弥生時代の住居跡6 軒・土坑2基	保存目的 確認調査	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第46集
2022 (令和4)	第16次	2022. 8. 2～ 9. 22	新倉3丁目 2811-1、 2812-1	約108㎡	断面V字溝確認	保存目的 確認調査	山本 龍 鈴木一郎	整理中

図2 午王山遺跡調査一覧